

テモテへの手紙第一4章「惑わす時代に聖書の教え」

1A 惑わす霊 1-5

1B 信仰の離反 1-2

2B 神からの食物 3-5

2A 良い教えの養い 6-11

1B 霊的な鍛錬 6-8

2B 救い主への望み 9-10

3A 聖書の教えへの専念 11-16

1B 信者の模範 11-12

2B 朗読と勧めと教え 13-16

本文

テモテへの手紙第一 4 章を開いてください。エペソの諸教会を監督し、牧会しているテモテに対するパウロの手紙です。今回は、生ける神の教会が、真理の土台と柱で成り立っており、キリストにある敬虔の奥義を、パウロは教えました。そこで、4 章です。パウロは、ここで偽りの教えがあることを再び警告しています。そして、聖書の良い教えに専念することを強く命じています。それこそが、自分と教会の人たちを救う道なのだ、と教えています。

みなさんが、このようにして聖書の教えを聞いているということが、いかに大切かを今日は学んでいくことができます。牧会者の務めには、三つあると言われていています。一つは、養うことです。みことばで、一人一人の信仰を養うのです。もう一つは、保つことです。みことばの教えを、その信仰をしっかりと守っていきます。そして、三つ目は、守ることです。いろいろな偽りの教えが、悪霊どもの攻撃によって教会に入ってきます。時に、そうした惑わしに警鐘を鳴らして、守らないといけません。この 4 章には、この三つすべてがしっかりと書かれています。

1A 惑わす霊 1-5

1B 信仰の離反 1-2

¹しかし、御霊が明らかに言われるように、後の時代になると、ある人たちは惑わす霊と悪霊の教えとに心を奪われ、信仰から離れるようになります。

キリストが肉において現れて、霊において義とされる、という敬虔の奥義、真理があるのに対して、「しかし」と言っています。その敬虔の奥義の真理に反して、偽の教えが一気に押し寄せるといふことです。「御霊が明らかに言われるように」と言っていますが、「ヨハネ 16:13 その方、すなわち真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導いてくださいます。」とあります。御霊が真

理について、はっきりと語ってくださっています。そして、「後の時代になると」とありますが、終わりの日になるにつれて、不法の秘密が働いていて、それを引き止めるものが取り除かれると、不法の人が現れると、テサロニケ第二 2 章で学びましたね。

その時に、「ある人たちは惑わす霊と悪霊の教えとに心を奪われ」と言っています。惑わす霊とは何でしょうか？エバに、蛇が惑わした時の霊です。「創 3:5 それを食べるそのとき、目が開かれて、あなたがたが神のようになって善悪を知る者となることを、神は知っているのです。」神から離れて独立し、自分が神のようになり、善悪を知るようになるということです。そして終わりの日には、主の与えられた秩序を覆す獣、反キリストが現れることが預言されています。「ダニ 7:25 a いと高き方に逆らうことばを吐き、いと高き方の聖徒たちを悩ます。彼は時と法則を変えようとする。」

今の時代、このことが非常に顕著になっています。それは、客観的な事実ではなく、自分の思っていること、感じていることが大事なのだという考えです。絶対的な真理を語るから争いが起こるのだ、それぞれが感じていることが真理なのだ、とすることです。自分のうちにこそ真理があるとするのは、言い換えれば自分が神であるということです。そして、既存の秩序を覆そうとします。

私が、5 月末から 6 月初めにエルサレムにいた時に、LGBT のパレードがありました。その後で、同じくエルサレムにある教会で、牧師さんが説教しました。それは、LGBT の大義はもっと大きな大義の一部にしか過ぎない。それは、神のもうけられた境界線をなくすことだ、ということです。今は、男と女の区別をなくそうとする動きです。日本でも、理解増進法においてその思想が見えています。それだけではありません。AI の技術と生身の人間をなくす動きがありますね。この前も話しましたように、AI 牧師が登場する、ChatGPT を使った礼拝がドイツで行われました。

このようなことをしていると、「信仰から離れる」ようになるとあります。ここで言っている「信仰」とは、神を信じることをやめるものではありません。信仰の前に、定冠詞、英語ですと the がついています。これは、信じるという行為ではなく、信じられている内容です。イエス・キリストについての教え、敬虔の奥義と呼ばれているところにある内容です。ここから離れるのです。ですから、信じているとは言いますが、その信仰の内容から離れているということです。

米同時多発テロが起こる前と起こった後の、アメリカの人たちに対して信仰についての調査がありました。イエスを信じている人々の数は減らなかったのですが、なぜか、聖書が神のことばであることの信仰が減っています。絶対というものは存在しないと答えた人たちも減ったと思います。けれども、イエスを信じているといいながら、どうして神のことばへの信仰が減るのでしょうか？こおが問題なのですね、聖書に啓示されているイエスではなく、自分の思いの中にあるイエスなのです。このようにして、信心深く見えても、その実を否定することが起こるのです。

²それは、良心が麻痺した、偽りを語る者たちの偽善によるものです。

この「麻痺」という言葉は、アイロンで自分の体を火傷させ、焦がしてしまい、ついに無感覚になってしまうような状態を指しています。パウロは、テモテへの手紙で、「良心」という言葉をたくさん用いていますね(1:5, 1:18)。良心をきよく保っていることが、私たちの信仰にとって死活的なのだということを学んでいます。しかし、それをないがしろにして、良心を汚す行為を行っている、ついに、麻痺状態に陥るのです。

例えば、テレビのドラマで、子役が、離婚するのは何かいいこと、格好の良いことのように語っている場面がありました。それは良くないこと、神の悲しまれること、夫婦にとって傷つくだけでなく、子どもが最も傷がつくことなど実体を知ることなく、ずっと聞かされているので、そのことは格好の良いことのように思ってしまうのです。しかし、私たちは、御霊によって真理に導かれ、そういったことは間違っていると識別し、良心をきよく保ちます。しかし、終わりの日になると、教会の者だといながら、キリスト者だと言いながら、主が語られたことではなく、自分の感じていることを優先させて、世と同じように良心を麻痺させることがあるということです。

そして、「偽りを語る者たちの偽善」とあります。つまり、一見、良いもののように見せるということです。「平和」「愛」「平等」など、聞こえが良いものが、数多くありますね。そのようなことを言って、偽りを広めていく言葉として利用されていきます。

2B 神からの食物 3-5

パウロの時代の時の偽善とは、次の教えです。

^{3a} 彼らは結婚することを禁じたり、食物を断つことを命じたりします。

結婚においては、男女の性の結びつきがあり、性欲がともなっています。食べることも、食欲に基づいています。これらの欲望は悪いものだから、だから絶たなければいけないという考えです。一見良さそうに見えますね。いかにも霊的に見えますね、欲望を抑えているのですから。しかし、それが霊肉二元論の、悪霊の教えだというのがパウロの言っていることです。清められるのは、みことばを聞いて、それを信じることによってもたらされます。「ヨハ 15:3 あなたがたは、わたしがあなたがたに話したことばによって、すでにきよいのです。」そして、肉体に属する欲求は、神のくださった賜物で、神の喜ばれるかたちで用いることができます。夫婦の関係もそうですし、食物を食べることも同じです。

今日のことを考えますと、環境問題の解決の中に、かなり怪しい動きがあります。我々、人類が生きていることによって二酸化炭素を排出しているので、子を産むことは悪いことのように教えま

す。それから、食物についても、牛の吐く息が二酸化炭素を出して空気を汚すので、牛を食べるのではなく、また牛乳を飲むのではなく、昆虫色でたんぱく源を得るべきだというものです。そして、今はこうしたへんてこな考えを、国々の指導層や大企業に影響を与えるほどの力を持っているので、なぜか日本でも、宣伝がなされたり、レストランが提供したり、政治家が推進したりします。

ここまでなら、世の流れとして仕方がないことでしょう。問題は、環境とか人権とかいう名目で、教会の中に入ってくることです。それを行うことが霊的であるかのように語っていくことです。それが、パウロがここで取り扱っている、悪霊の教え、惑わす霊の教えなのです。私たちが、キリストの流された血によって、御霊によってのみきよめられるのに、きよめられる基準を異質なもので取り替えてしまうことが問題なのです。

私たちはすでに、コロサイ人への手紙でこの問題について取り扱いました。「コロ 2:20-22 もしあなたがたがキリストとともに死んで、この世のもろもろの霊から離れたのなら、どうして、まだこの世に生きているかのように、「つかむな、味わうな、さわらな」といったために縛られるのですか。これらはすべて、使ったら消滅するものについての定めで、人間の戒めや教えによるものです。」

肉食主義の人たちがいますが、自分の健康にとってよい、精神的にも良いというのであれば、もちろん何の問題もありません。そこに霊的な意味づけをすることで、大きな問題になります。ワクチン接種、未接種でも、教会自体がその善悪で議論している状態は危険でした。ワクチンを受けると、獣の刻印を受けることになるという議論は、きわめて悪霊的です。なぜなら、刻印を受けることは、神の激しい憤りを受けるということ、救いを失うということに等しいからです。こういった、食べるな、触るなということに私たちの思いを引き寄せる動きは、敬虔の奥義に反対する、偽善なのだということを覚えておきたいです。

^{3b} しかし食物は、信仰があり、真理を知っている人々が感謝して受けるように、神が造られたものです。⁴ 神が造られたものはすべて良いもので、感謝して受ける時、捨てるべきものは何もありません。⁵ 神のことばと祈りによって、聖なるものとされるからです。

人をきよめるのは、信仰により、しかも真理に対する信仰によります。この本質があつて、それで食物は感謝して受け入れるようにしなさいと主は命じておられるのです。イエス様はたくさん食べられましたが、神に感謝を献げてからパンを裂かれました。こうやって、主の御名によって食べる時に、それ自体が神の栄光を表すことになるのです。「1コリント 10:31 こういうわけで、あなたがたは、食べるにも飲むにも、何をするにも、すべて神の栄光を現すためにしなさい。」

そして、初めに神が天地を造られた時に、「よしとされた」と言われました。これが基本であります。そして、ユダヤ人の食物規定がありました。イエス様は、内から出てくるものが人を汚すの

であり、外から入るものは排泄されると言われました。こうして、汚れたものというものはない、ということでした。

そして、神のことばと祈りによって、聖められるのです。これが、本質です。神のことばがあつて、そしてみこころに沿って祈る中で、私たちは聖められていきます。そして食物を、主にあって食べることができます。律法の下では、交わりのいけにえがあり、一部は祭壇に献げ、残りを献げた者が食べます。そうやって主に感謝を献げていました。同じように、私たちが食べることにおいても、主の前で行うことになるのです。

2A 良い教えの養い 6-11

このようにして、暴風のようにして、終わりの時には惑わず霊が吹き荒れています。そこで、私たちが何をしなければいけないでしょうか？それが初めにお話した、みことばの教えです。

1B 霊的な鍛錬 6-8

⁶ これらのことを兄弟たちに教えるなら、あなたは、信仰のことばと、自分が従ってきた良い教えのことばで養われて、キリスト・イエスの立派な奉仕者になります。

テモテは、兄弟たちに健全な教えを教えるように命じられています。健全な教えこそ、私たちが救うことができます。どんなに暴風が吹いていようが、私たちが正しい道へ進ませることができます。

そして、ここでとても興味深いことがあります。テモテが兄弟たちに教えていくなれば、彼自身が、信仰のことばと、良い教えのことばに養われるということです。ところで、「信仰のことば」というのは、もっと信仰によって語っていくものです。良い教えというのは、教理と言ったら分かりやすいでしょうか、真理の体系のようなものです。テモテは、良い教えに従っていました。そして、信仰のことばが与えられて、励まされて、育って来ました。そのことを、自分自身が兄弟たちに教えて行くなれば、再びそこにつながり、自分自身が養われていくようになるのだということです。

ここが教える奉仕にある不思議な神の働きです。自分が主から教わったことを教えるのですが、そうすることによって、自分自身がその中に留まり、養われるのです。そうやって、テモテ自身もこれら悪霊の教えから守られ、救われることができるということです。自分が教える前に、養われなければいけないと人々は言います。それはその通りです。けれども、教えている中で、自分自身が教えられていくのです。こうした、教えられていく人間が、「キリスト・イエスの立派な奉仕者になる」ということです。

ですから、自分の賜物を用いて、他の人々に分け与えるということがいかに大切かを思います。与えることで受けるのです。ローマの教会の人たちに手紙を書いた時、パウロがこう言いました。

「ロマ 1:11-12 私があなたがたに会いたいと切に望むのは、御霊の賜物をいくらかでも分け与えて、あなたがたを強くしたいからです。というより、あなたがたの間であって、あなたがたと私の互いの信仰によって、ともに励ましを受けたいのです。」

⁷ 俗悪で愚にもつかない作り話を避けなさい。むしろ、敬虔のために自分自身を鍛錬しなさい。

違った教え、果てしない作り話と系図について、心を寄せたりしないように命じなさいとパウロは命じていました(1:4)。敬虔のための教えではない、こういった作り話は教会の中に入り込んできます。それに、はまっていく人々がいます。地球が平らである。イエスの墓は青森にある、とか。つい最近も知人のクリスチャンが、日本人はユダヤ人であり、神道はまことの神への信仰だという考えの人の本を紹介していました。この食べ物には毒が入っていると。どこが情報源であるかが分からないもの。根拠がとぼしく、憶測にしかすぎないものを信じて、それを教会に広めます。その他、到底、敬虔に生きるものとは全く関係のないものを、こうやって、教会で推し進めようとしています。

そうではなくて、私たちがしなければいけないのは、霊的な鍛錬です。敬虔のために鍛錬です。

⁸ 肉体の鍛錬も少しは有益ですが、今のいのちと来たるべきいのちを約束する敬虔は、すべてに有益です。

当時の、ギリシア・ローマ社会は、今の私たち以上に、肉体の鍛錬がもてはやされていました。パウロがしばしば、賞を得るために走るなど、スポーツ競技を喩えて教えていますが、それは、人々の関心が高かったからです。パウロは、そのことについて否定しません。「少しは有益」と言っています。キリスト者も、神から与えられた体を整えることについて、いささかの益になります。健康管理など、大事ですね。

しかし、それ以上に大事なのが、敬虔のための鍛錬です。「すべてに有益です」と言っています。今のいのちについても、来るべきいのちについても、約束されている敬虔です。パウロは言いました、「ロマ 6:22 しかし今は、罪から解放されて神の奴隷となり、聖潔に至る実を得ています。その行き着くところは永遠のいのちです。」私たちは、永遠のいのちを既に受けています。死んでから、あるいは、世の終わりが来てから初めて受け継ぐのではなく、今も与えられているいのちです。イエス様が、こう言われました。「ルカ 18:29b-30 だれでも、神の国のために、家、妻、兄弟、両親、子どもを捨てた者は、必ずこの世で、その何倍も受け、来たるべき世で、永遠のいのちを受けます。」たとえ、主に従うために失うものがあったとしても、今の世でもそれを補い、ありあまるものが受けられるということです。

このようにして、私たちがしっかりと、良い教えを受けて、信仰のことばによって養われることによ

って、育っていきます。そうすれば、しっかりと霊的に免疫ができて、こうした余計なもの、異質なもの退けることができます。こうやって守られます。

2B 救い主への望み 9-10

⁹このことばは真実であり、そのまま受け入れるに値するものです。¹⁰私たちが労苦し、苦闘しているのは、すべての人々、特に信じる人々の救い主である生ける神に、望みを置いているからです。

主がすべての人の救い主で、信じる者たちに実際に救いを与えることのできる方です。すべての人のための救い主ですが、信じていなければそれを自分のものとすることができません。それが、ここに書かれていること、「すべての人々、特に信じる人々の救い主」の意味です。他に、いろいろと落胆させることがあります、この方に望みを置いています。

パウロは、敬虔のための教えを「真実であり、そのまま受け入れるに値する」と言っています。私たちは、このような偽りの教えや作り話の嵐を受けている時に、はたして、自分のしていることはそれでいいのだろうか？と疑問に思ってしまう。地道に、救い主を宣べ伝える働きが、はたしてそれだけで十分なのだろうか？と思ってしまうのです。そこでパウロは、それでよいのだと太鼓判を押すために、「このことばは真実であり、そのまま受け入れるに値するものです」と言っています。

3A 聖書の教えへの専念 11-16

そこで、テモテ個人の状況に合わせた、強い勧めを行います。

1B 信者の模範 11-12

¹¹あなたはこれらのことを命じ、また教えなさい。¹²あなたは、年が若いからといって、だれにも軽く見られないようにしなさい。むしろ、ことば、態度、愛、信仰、純潔において信者の模範となりなさい。

テモテは、若い人です。おそらく30代であつたでしょう。午前礼拝でお話したように、彼は、ことあらば「あなた、若いね～。それだから、こんなことが分からないんだよ。」と、マウントをかけてくる古い世代の人たちがいるということです。ある牧師さんが若い時に起こった話ですが、聖霊が神ではないかのように教えている牧師がいたそうです。それで、聖霊が神であるとはっきり分かる箇所を聖書から見せました。そうしたら、「あなた若いね～」と言われたそうです。年など、関係ないですね。間違っているものは間違っています。

このように、ただでさえ見下されているのですが、ここでどのようにして前進していけばよいのか？自分で他者を変えることはできません。そうではなく、自分自身が変わることです。信者の模範になります。「ことば、態度、愛、信仰、純潔において」模範となります。敬虔にかなったことで、模範になります。そもそも、このように生きるのは、すべての信者に与えられた召しです。それなの

に、別のことに逸らそうとする者たちがいます。そして、年が若いということを理由にして、その目標からずれていることを認めません。ですから、そもそもキリスト者としてしなければいけないことに集中しなさい、ということです。

2B 朗読と勧めと教え 13-16

¹³ 私が行くまで、聖書の朗読と勧めと教えに専念しなさい。

これが、初代教会が強調していたことです。朗読は、そのまま声に出して聖書を読むこと。そして、勧めは、すでに知っているみこころを、行うように促すことです。そして、教えは、そのまま聖書にある教えを説き明かすことです。教会は、おそらく当時のユダヤ教のシナゴグで行われていたことを一部、踏襲したのだと思われます。そして、旧約聖書ではこれを、バビロンからエルサレムに帰還した民が、学者エズラの下で行っていたことが書かれています。ネヘミヤ記 8 章です。

5 エズラは民全体の目の前で、その書を開いた。彼は民全体よりも高いところにいたのである。彼がそれを開くと、民はみな立ち上がった。6 エズラが大いなる神、【主】をほめたたえ、民はみな両手を上げながら「アーメン、アーメン」と答え、ひざまずき、顔を地に伏せて【主】を礼拝した。7・・・レビ人たちは、民に律法を解き明かした。その間、民はその場に立っていた。8 彼らが神のみおしえの書を読み、その意味を明かに示したので、民は読まれたことを理解した。

専念しなさいとパウロが、命じています。ここに私たちカルバリーチャペルは、従事しています。聖書を朗読し、それを説き明かし、そしてその意味するところが明解になるということです。聖霊が働かれて、みことばの真理を一人一人の心に明らかにし、人々がそれに応答して、みこころを行うことができるようにする、というものです。

¹⁴ 長老たちによる按手を受けたとき、預言によって与えられた、あなたのうちにある賜物を軽んじてはいけません。

パウロもいたところで、長老たちがテモテに按手しました(Ⅱテモテ 1:6)。その時に、預言が与えられたようです。そしてテモテに、福音を伝え、またみことばを教える賜物が与えられていることが確認できたのでしょう。しかし、テモテはそれを用いない傾向があったようです。多くの圧を受けていましたから、彼はその奉仕に従事しないようにしていたようです。

第一テサロニケ 5 章に、「御霊を消してはいけない」という勧めがありますが、用いないままにすることが可能です。ある人が言っていました、賜物については、それを用いないことも、誤って用いることも間違っている、ということです。誤って用いるというのは、全体の益のため、霊的成長に役立つように用いるのではなく、自分自身を求めているようなことです。そういった賜物が歪められて

いることがあるので、むしろ用いないという選択をする人たちもいます。しかし、軽んじてはいけません。主はみなさんに賜物を用意されています。軽んじてはいけません。

¹⁵ これらのことに心を砕き、ひたすら励みなさい。そうすれば、あなたの進歩はすべての人に明らかになるでしょう。

賜物を用いても、一向に前進しているように見えないことがあります。主に与えられた時間を用いて、主の働きをしても、何も変わっていないようにみえます。むしろ、反対があることもあるでしょう。けれども、それでも心を砕き、ひたすら励むのです。そうすれば、必ずや今は、だれも認めないことも、その進歩がすべての人に明らかにされます。5章25節でも、「同じように、良い行いも明らかですが、そうでない場合でも、隠れたままでいることはありません。」とあります。主の恵みは、後になってからでないと、明らかにならないことがたくさんあります。

¹⁶ 自分自身にも、教えることにも、よく気をつけなさい。働きをあくまでも続けなさい。そうすれば、自分自身と、あなたの教える人たちとを、救うことになるのです。

聖書の朗読、勧め、教えるに励んでいる中で、気を付けないといけないことが二つあります。まず、「自分自身」です。自分自身が果たして、キリストの内に立っているかどうか、注意していないといけません。いつの間にか、惑わしの霊による、信仰からの離反に自分も加担しているかもしれません。気を付けます。そして、「教えること」です。・教えるが、世のいろいろな霊による人間の哲学によるものかどうかを、気を付けます。

そして、「働きをあくまでも続けなさい。」と励ましていますね。あくまでも、であります。がっかりしたり、あるいは、他のことに逸れて行かないようにして、あくまでも働きを続けます。私たちの教会は、創世記から初めて、今、ここまで来ました。あくまでも続けて行きましょう。

そして最後、「自分自身と、あなたの教える人たちとを、救うことになるのです」という約束です。自分が教えている中で、実は聞いている人だけでなく、自分自身も、終わりの日の惑わしの霊から救われるのだということなのです。だから、「攻撃が最大の防御」と言われるように、しっかりと教えることによって、自分自身が守られるということです。

みなさんが、牧会者ではなくとも、賜物がそれぞれに与えられています。ぜひ、賜物を積極的に用いて、奉仕に携わってください。それが自分自身を救うのです。前進しなければ、後退します。前進しなければ、信仰から離れるや知れません。スケートをして、前進しなければ氷の上に立てないのと同じです。自転車が前進しなければ倒れるのと同じです。積極的に関わり、信者としての模範、信者の間での模範となっていくことで、自分自身を世の荒波から救うことになります。